



クリスマス・新年のご案内

12月17日(日) 11時～

クリスマス主日礼拝・祝会

礼拝の後に食事を持ち寄って、楽しい祝会を行います！
どなたも歓迎！共にクリスマスを祝いましょう！！(食事代500円)



12月24日(日) 11時～

主日礼拝

クリスマス・イヴの朝も礼拝を行います。

1月1日(月) 11時～

元旦礼拝

新年を教会で迎えましょう！
新しい一年も教会から始めよう！

12月24日(日) 19時～

燭火礼拝(キャンドルサービス)

イエス・キリストの誕生を祝い、ろうそくに火を
ともして礼拝を行います。
ぜひ教会へお越しください！



若松英輔

批評家・随筆家。
「三田文学」編集長、読売新聞読書委員、
東京工業大学リベラルアーツ研究教育院
教授(2022年3月まで)などを歴任。
1968年生まれ、慶應義塾大学文学部
仏文科卒業。

若松英輔さん 講演会



「べてるの家」の
“向谷地生良”さんもゲスト登壇！！
若松英輔さん・奥田牧師との鼎談も。

奥田知志

滋賀県大津市出身。
NHK「プロフェッショナル
～仕事の流儀」に2度
取り上げられ、著作も多
数。

2/23 (金・休) 午後2時～

特別礼拝

講師: 奥田知志 牧師
(当教会牧師・NPO法人「抱樸」理事長)

2/25 (日) 午前11時～



教会バザーへのご協力、ありがとうございました!

今年は4年ぶりに11月23日の恒例の教会バザーを盛況のうちに行うことが出来ました。献品等でご支援くださったみなさま、また、ご来場くださったみなさまにもここに謹んでお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後とも地域に開かれた教会として活動していきたいと願っております。

ご協力いただいて得られた収益から、抱樸が進めている“希望のまちプロジェクト”に募金をさせていただきます。希望のまちプロジェクトについて、詳しくは特設ページをご覧ください。

<https://www.houboku.net/pj/kibou/>



来年も教会バザーを開催する予定です。どうか、この働きをおぼえて、お支え下さいますように。来年に向けて献品の品々を少しずつご準備くだされば大変助かります。来秋、ご案内チラシが参りましたらどうかよろしくお祈りいたします。



牧師エッセイ 「おかしいけどあたたかい」

牧師 奥田知志

もう二十年以上前のこと。小倉の勝山公園に「トーテンポールの丘」という場所があった。十名ほどのホームレスの方々がテントを建てて暮らしておられた。そこに暮らすAさんにどうしても伝えなければならぬことがあり早朝6時「丘」を訪ねた。2月の夜明け前。暗くて寒い小道の先、霜の降りた草むらでAさんは寝ておられた。「奥田です」と呼びかけにAさんは起きてきてくださった。用事を済ませ「じゃあ、帰ります」と言う僕に「朝飯つくるから食べていかな」と言われる。「じゃあ、いただきます」と思わず答えてしまった。Aさんは野宿生活で飯を作る鍋釜は見当たらない。前日手に入れたと思われるコンビニのお握りが小屋の横に5つほど並んでいた。一晩中そこに置かれたお握りは半分凍っており、フィルムの内側はお握りから出た水滴が凍ってキラキラ光っている。おいしうには見えない。

「このままでは食べられないけど・・・」。僕はだんだん不安になりだし「いただきます」と答えた自分を反省し始めていた。そんな僕の気持ち伝わったのかAさんは「大丈夫」とつぶやき、半分凍ったお握りを二つ取り上げ、おもむろに着ていた服のボタンをはずしファスナーを下げ始めた。重ね着の古層にへとAさんは向かっていく。「えええ、どういこと」。僕は益々不安になる。Aさんは当然のように作業を進めていく。そしていよいよお腹に到達した時、Aさんはお握りを放り込んだ。「ええええええええええ」。驚いたところではないが「止めて」というのも失礼だ。驚愕の表情を押し隠し黙って見ていた。「5分ほどかかるけど」とAさんは笑顔で仰る。「人間電子レンジ」。

勇気をだして「あああ、大丈夫。飯は今度で」と言った時には5分が経過していった。Aさんは「じゃあ、持って帰らんね」と笑顔で「調理済みのお握り」を渡してくださいました。「あ、あ、ありがとうございます」とあいまいな返事をした僕は「人肌」に温められたお握りを受け取った。確かに「人肌」。Aさんはどや顔をされている。

家に帰り、フィルムを取ると溶けた水滴が流れ出た。水分が出てしまったお握りはパサパサで食べられたものではない。だがAさんにとってそれは大事な食糧だ。捨てるわけにはいかない。我慢して全部食べる。

「人間電子レンジ」は「おかし過ぎる」。あり得ない。しかし、僕はAさんの「おかしさ」を笑いつつも彼の「やさしさ」を感じていた。パラパラのお握りは不味かったけどおいしかった。「おかしいけどやさしい」。人が人と生きる時、そんな思いになることがある。だから簡単に「お前おかしい、間違っている」などとは言えない。

対人援助や支援制度の現場では、支援が専門的になるほどそういう感覚が薄くなる。専門職の倫理規定からすると相談者、つまり被支援者から物をもらうことは許されない。賞味期限が切れたお握りを食べるのも衛生上問題だし、お握りの入手方法もわからない。お腹に入れて温めるのは人それぞれだと思いが、専門職としては最貧困状態にあるAさんに対してどのような支援計画を立てるのかを第一に考えることになる。使える制度は何かと考えるだろう。

当然、それは大事なのだが「おかしいけどやさしい」が僕にとっては何よりも大事だった。この不思議な組み合わせが人を和ませる。支援する側もされる側もない。そんな原初的な関係が楽しい。制度には乗らない人間の「おかしいがやさしい」という現実を僕は大事にしたい。

急に寒くなった先週の炊き出しの夜。今や駐車場になったトーテンポールの丘を眺めながらAさんを思い出した。今頃天国で何を食べているだろう。「父の家(天国)には住処多し」(ヨハネ福音書十四章)とイエスは言う。いまごろ天国の住民に「朝飯食べていかな」と得意の「人間電子レンジ」を披露しているだろうか。寒風に冴えた夜空からAさんの「おかしいくやさしい」声が聞こえた気がした。



- 定例集会**
- ・主日礼拝
 - ・子ども礼拝(小学生以下)
 - ・少年少女会(中高生会)
 - ・聖書の学びとお祈りの会

- 毎週日曜 午前11時
- 毎週日曜 午前10時
- 毎週日曜 礼拝後
- 毎週水曜 午後7時30分

〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40 電話/FAX:093(651)6669
 Email:higashiyahata.ch.1955@nifty.com ホームページ:「東八幡キリスト教会」で検索
 星の下 YouTubeチャンネル:「星の下 YouTubeチャンネル」で検索
 牧師:奥田知志 石橋 誠一 / 協働牧師:藤田 英彦 森松 長生

